

弘前市総合計画 後期基本計画

～みんなで創り みんなをつなぐ あずましいりんご色のまち～

2023（令和5）年3月策定
2024（令和6）年3月改訂
2025（令和7）年3月改訂
2026（令和8）年3月改訂

【①目指す姿】

■健全で安定的な経営基盤を構築し、適切な資産管理のもと、老朽化した施設の更新などを最適に進めることで、安全・安心な給水サービスと快適な生活環境の保全が図られています。

■上下水道事業は、事故や災害時においても安定したサービスを確保する必要があり、市民生活に密着した重要な役割を担っていることについて、市民の理解が深まります。

政策課題指標	総合計画初年度（2019年度）	基準値（2021年度）	目標値（2026年度）
①安全な水道水に対する市民の満足度	①79.0%	①79.2%	①79.6%
②下水道により衛生的で快適な生活を送れる市民の満足度	②75.0%	②74.9%	②76.9%
指標の説明			
『弘前市市民意識アンケート』における、「安全な水道水をいつでも利用できることについて」及び「下水道により衛生的で快適な生活を送れることについて」という設問に、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した市民の割合			

【②現状と課題】

◇安全で安定した水道水の供給

●人口減少や節水意識の高まりなどにより、近年は水需要が減少している状況にあり、今後、上下水道事業の経営は厳しくなることから、より一層のコスト削減と料金の見直しが必要です。

●こうした中、これまで経営基盤の強化を図るため、包括業務委託*による効率化や施設の合理化を行ってきましたが、今後も、より一層健全な事業経営に努めることが求められています。

●水道事業における管路経年化率は、同規模事業体と比較して高い数値となっているほか、浄水場等の水道施設の耐震化率も東北主要都市と比較して低い状況にあります。

●よって、安全で安定的な水の供給により市民が安心して水道水を使用できるよう、施設の統廃合等によるライフサイクルコスト*の最小化を図り、長寿命化対策を含めた計画的な更新や耐震化を進める必要があります。

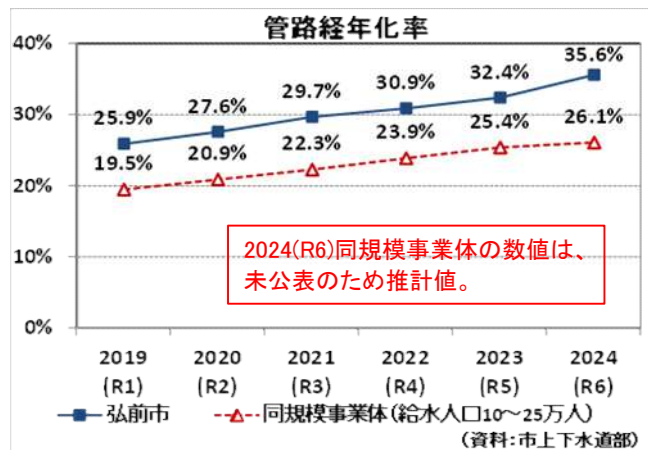
◇下水道の整備による快適な生活環境の確保

●汚水処理人口普及率*は、県内でも高い数値となっていますが、公共下水道計画区域においては未普及地区が残っており、市民からは早期の整備が望まれています。

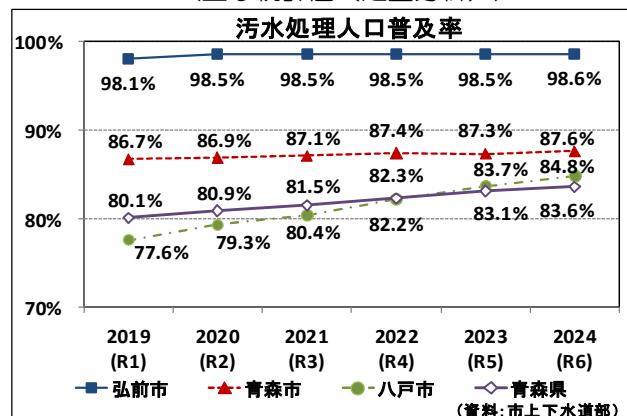
●さらに、耐用年数を超え老朽化した下水道施設の改築・更新が今後増大すると見込まれています。

●よって、衛生的な生活環境の維持により市民が快適に暮らせるよう、施設の統廃合等によるライフサイクルコスト*の最小化を図り、長寿命化対策を含めた計画的な更新や耐震化を進める必要があります。

〈主な統計値（定量分析）〉



〈主な統計値（定量分析）〉



〈主な市民等意見（定性分析）〉

上下水道PR会場への来場者や施設見学者からは、「安心して飲める水を提供してほしい」という意見や、「災害時においても、安定して下水道施設が使用できるように」という意見が寄せられています。

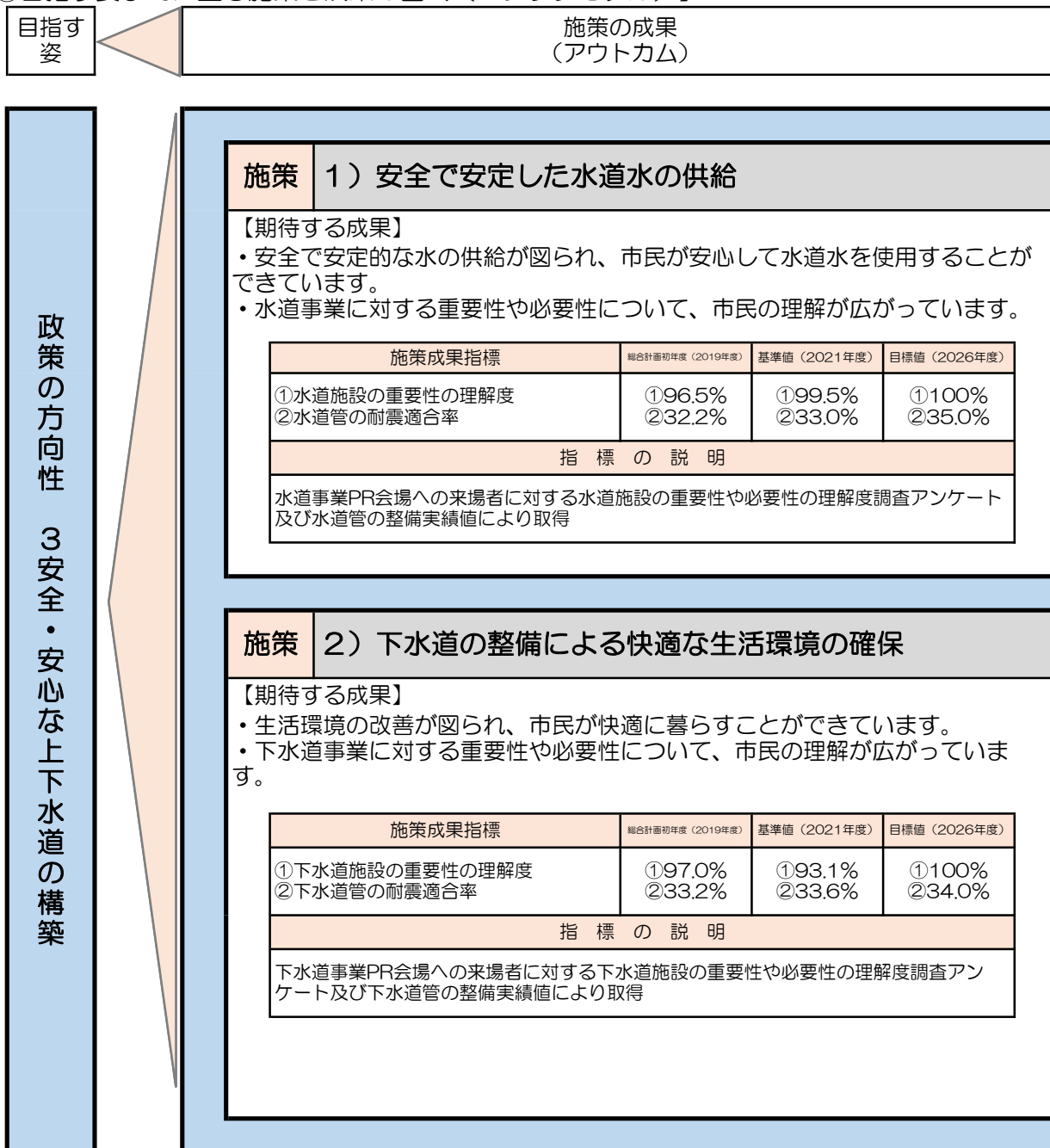


常盤坂配水池



下水道工事の様子

【③目指す姿までに至る施策と成果の図式（ロジックモデル）】



施策の取組
(アウトプット)

施策を構成する計画事業
(インプット)

【取組内容】

- ・老朽化した管路や施設を更新するほか、拠点施設への配水管の耐震化などを計画的に進めます。
- ・適正な水質管理により安全・安心な水の供給を図ります。
- ・水道事業についてのPR活動を行い、安全な水の供給に関する市民の理解度向上を図ります。

【計画事業】

- ①老朽管更新事業
- ②主要管路耐震化事業
- ③樋の口浄水場等建設事業
- ④水道施設老朽化対策事業
- ⑤上下水道PR事業

【取組内容】

- ・未普及地区の下水道整備を進め、生活環境の改善や公共用水域の水質保全を図ります。
- ・老朽化した下水道施設の計画的な改築・更新を図り、災害にも強い下水道施設の構築に取り組みます。
- ・下水道事業についてのPR活動を行い、生活環境の改善に関する市民の理解度向上を図ります。

【計画事業】

- ①公共下水道建設事業
- ②管渠改築事業
- ③公共下水道処理施設等改築事業
- ④マンホールポンプ場改築事業
- ⑤農業集落排水処理施設等改築事業
- ⑥上下水道PR事業（再掲）